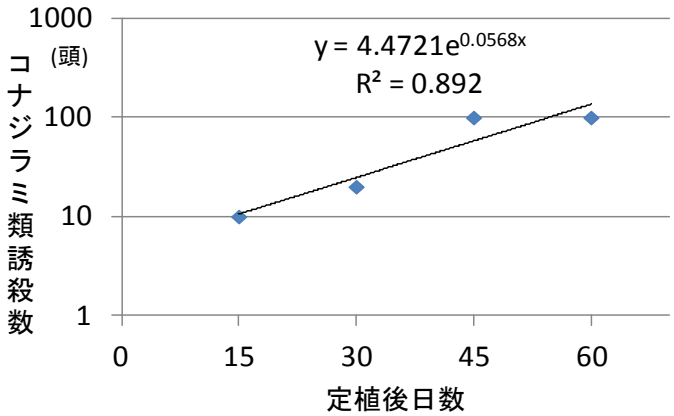
キュウリ退緑黄化病の発生状況と防除方法

埼玉県におけるキュウリ退緑黄化病※は、８～12 月頃に栽培する抑制作型で発生しています。生育初期に発症すると約３割も減収することが明らかになりました。また、初期発病率が高いほど後期の発病株率が高くなるため、栽培期間前半の対策が重要であることがわかりました。

防除方法として、このウイルスを媒介するタバココナジラミの定植後日数別の発生許容量を決定しました。薬剤による防除のほか、ハウスの窓等に防虫ネットを張ったり、黄色粘着板を設置するなどの物理的防除や天敵のスワルスキーカブリダニの導入など、複数の対策を組み合わせることが効果的です。

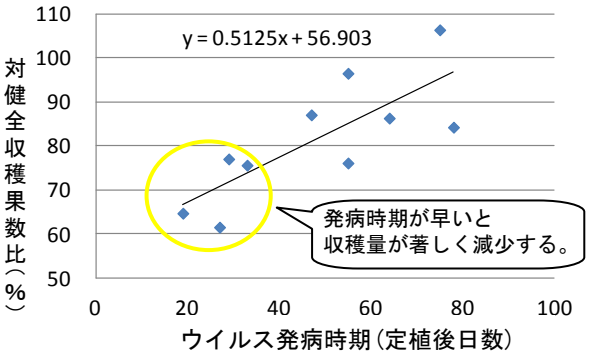
※退緑黄化病：タバココナジラミによって媒介されるウイルス病です。葉に生じた退緑斑点が徐々に拡大し、葉脈に沿った部分を残し、葉全体が黄化します。

【キュウリ退緑黄化病の症状】

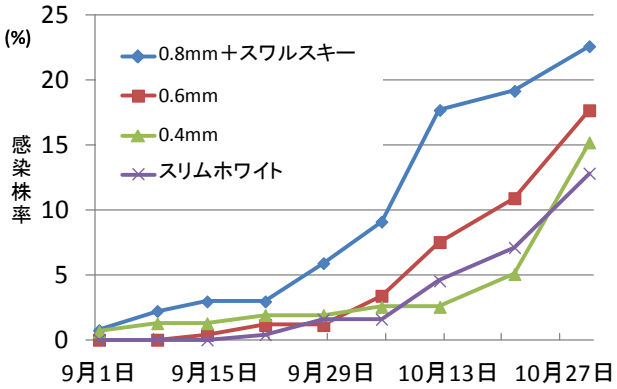


【施設内のコナジラミ類の発生許容量】

栽培期間の最後に、発病株を約 30%以下に抑えるための時期別の許容頭数。（黄色粘着板の片面に 1 週間で誘殺されるコナジラミ類の数）



【発病時期と健全株に対する収穫果実の割合】
（8 月 13 日定植、摘心栽培）



【防除対策別（防虫ネットの種類と目合い）の感染株率】

（病害虫防除技術担当　TEL 0480-21-1114）